

一二ノ八、石川義純公碑文

出典 笠置山頂の紅葉公園（宝蔵院跡）に所在する碑文より

解説 石川飛騨守義純は清和源氏の末流で、八幡太郎義家の五男、義時を祖とし、代々河内国石川郡を領有していた。夙に勤王の志あり、後醍醐天皇が笠置に臨幸されるやはせ参じ、九月二十八日夜、陶山一党が放った猛炎が行宮を襲う中、一族数十人と共に奮戦し、現在の本堂と椿本神社の間で攻め込んでくる北条軍をくい止めた。その活躍によって天皇は本堂裏の絶壁から東側の観音谷に下って寄せ手の重囲から脱出し、谷川沿いに無事、笠置山から落ち延びることに成功した。石川義純は帝脱出の約二時間後、帝が無事落ち延びたことを確認して行宮の門前に於いて戦死した。

この碑は昭和四年、義純の子孫の手によって行在所下の宝蔵坊跡、今は紅葉公園となっているもみじ公園の一角に公の忠孝を讃えて建立されたものである。

原文

贈従四位飛彈守石川氏源義純公碑

石川義純公ハ河内石川城ニ住シ夙ニ勤王ノ志アリ元弘元年八月二十七日後醍醐天皇笠置ニ臨幸アラセラレ北条高時討伐ノ軍ヲ起シ給フヤ公ハ詠ヲ奉ジテ参侯シ行宮ヲ守護ス同年九月二十七日夜賊軍襲来リ火ヲ放チ猛炎忽チ行宮ヲ蔽フ公ハ一族数十人ト共ニ奮戦シ賊軍ヲ防ギ天皇ヲシテ重囲ヲ避ケシメ奉リ遂ニ行宮ノ門前ニ戦死ス公ニ数子アリ義有ハ父ト死ヲ共ニシ義昌ハ宗良親王ニ扈從シ永和二年越中ニ終リ義輔ハ和泉土丸城ニ賊軍ト戦ヒ弘和二年一月没ス前後五十余年父子四人ノ死ヲ以テ王事ニ勤メタルコト凡ソ斯ノ如シ茲ニ六百年ヲ経テ昭和三年十一月十日即位ノ大典ニ当リ公ハ贈位ノ天恩ニ浴ス我カ石川氏ノ一族ハ相謀リテ此地ニ碑石ヲ建設シ其ノ功績ヲ永遠ニ伝ヘントス

従四位勲三等医学博士石川日出鶴丸

石川 玄 共撰

昭和四年三月二十七日